

野球大会

ごうけつ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

シャンパがビルスに野球の勝負を申し込んだ。悟空とジレンの名勝負などあり。

目次

野球大会

「おい、ビルス。また野球で勝負しようぜ」

「シャンパが勝負を挑んできました。」

「ふん、どうぞ僕たちが勝つんだ、やるだけ無駄だよ」

「そんなこといわずにさあ、やりたいんだよ」

「しつこく申し出るシャンパに」

「しようがないなあ、つきあつてやる」

「ビルスは申し出を受けました。」

「場所はサタンシティスタジアムです。」

「第7宇宙代表、ダンディドラゴンズ」

「その他宇宙代表、ダイナミックドラゴンズ」

「高らかにウイスがコール。」

「その他宇宙!?!」

「そうです。シャンパのチームにはジレン、トツポなど第11宇宙の戦士もいたのです。」

「卑怯だぞ、シャンパ」

「ビルスハ怒鳴りますがシャンパは」

「別にいいだろ」とどこ吹く風。

「ジレンは悟空に近寄ると」

「決着をつけるぞ、孫悟空」

「と言いました。」

「さて、試合開始。先攻はダイナミックドラゴンズ。」

「悟空が振りかぶって1投目。」

「ズバーン！」

「ストライク！」

「ウイスさんが高らかにコール。」

「2投目」

「ジレンはフルスイング。」

「しかしドン詰まり。」

「ファール」

3 投目

ジレンまたまたフルスイング。しかし振りおくれ、空振り三振！

その後、トツポ、ヒットとも空振り三振。

上々の立ち上がりの悟空。

しかし1回ウラのダンディドラゴンズも悟空、ベジータ、悟飯とも空振り三振。

やはり双方格闘技のようにはいかないようです。

こんな調子で3回まで3者凡退が続きます。

このままでは埒があかないとビルスは4回裏、悟空にバントを命じます。

「そんなのつまんねえよ」

と言いなから渋々従います。

しかしこれがジレンの悪送球を誘い無死一塁。

ベジータ、悟飯もバント、しかし2人とも一塁でアウト。

「4番セカンドやジロベー」

侍戦士の登場です。

「なんだあ、打てそうにねえなあ」

シャンパはヤジロベーを甘く見ています。

「ふん、あいつ知らないんだな、昔すごい活躍したっていうのに」

ビルスは知っていたのです。ベジータの尻尾を切ったり大活躍したことを。

ジレンは渾身の1球を投じます。

フルスイング！

しかしどん詰まり、駄目かと思った時、ディスプレイとキャベとポタモの間にポトリ！

ラッキー

ポテンヒットでついに均衡が破れます。

ダンディドラゴンズ1点先制。

試合はそのまま1―0で9回。

カリフラ、ポタモ連続三振。

シャンパはもうだめだと思ったが、勝利の女神は気まぐれ、9番
デイスポがセーフテイバントで1塁へ。

さあ、いよいよジレンと悟空の一騎討ち。

真剣勝負というのはいやがうえでも盛り上がるもので、今まで別々
にとんでいたヤジが1つにまとまります。

これはどうしたって弱いものの味方ですから、悟空に対する声援で

「悟空、悟空」

いわゆる悟空コール。

やはりヒーローは得ですね。

ジレンも負けじと悟空を睨みホームラン予告。

1 投目ストライク

2 投目空振り。

しかしここから粘るジレン。

7球ファール、徐々にタイミングが合ってきました。

2ボール2ストライクからの21球目。

悟空の渾身の1投。

タイミングバツチりで振り抜きます。

打球はセンターミスターサタンの頭上を襲います。

「しまったー」

悟空もビルスも驚愕。

シャンパは

「やーい、ビルス、ざまあみろ」

とテンションマックス。

しかしジレンはベースを回ろうとせずにベンチに戻ります。

シャンパが

「おい、どうしたんだ」

と聞くと、ジレンはぼつりとひと言

「わずかに差し込まれた」

その瞬間、ボールは失速してミスターサタンのグラブにすっぽり収
まりました。

「試合終了ー!」

ウイスさんのコール。

ビルスは勝つたのにきつねにつままれたような表情。

そこにシャンパが近寄り、

「ありがとうな、いい勝負ができた。またやろうな、きょうでえ」とお礼。

ビルスは

「ああ」と言うしかありませんでした。